

# サマーキャンプ2010

## 日程

【初日】ライフスキルラーニング バンフジュニアリーグ

【2日目】バンフジュニアリーグ 海水浴 すいか割り

【3日目】交流戦 in 岐阜

【帯同コーチ】 杉村・永谷・大島・木村・伊藤・佐藤・石井

## 【サマーキャンプの狙い】

### ◆フットサルを通じての人間形成

普段とは違った仲間、環境で良い刺激を受け、今よりフットボールを好きになる機会とする。

### ◆団体生活

親元を離れ、自分の事は自分ですることにより自己管理を知り、仲間との助け合いながら団体行動を学び、子供の自立心を育む。



## 【1日目】【ライフスキルラーニング】

最初の行事、ライフスキルラーニングは愛知県にあるルミナス豊田にて始まりました。まずは心のウォーミングアップに「ひたすらジャンケン」、同じトレーニング班内で名前を覚え合う「よろしくキャッチボール」。今回の核となるワーク「ハートビーイング」です。ポジティブな言葉と姿勢を掲げ、合宿を通して実践するものです。



## 【トレーニング】

ライフスキルラーニングで心を温めた後はフットサルトレーニング。永谷班、杉村班、大島班、木村班の四つに班分けして行いました。今年の夏は非常に暑く、例年はウォータークーラーのお茶が余るのに今回は無くなるほどでした。普段のコーチ、仲間とは違った状況でみんなは刺激を受けたでしょうか？

## 【永谷コーチ】子供たちを観て。

合宿では各地から色々な子供が集まってきます。初めて顔を合わす子が多い中で子供達は少し同じ時間を過ごただけでお互いを名前呼びあう場面、一緒に遊ぶ場面、フットサルについて話をする場面などたくさんの新しい仲間を作っていました。

私はこの光景を目にした時に感動を覚えました。そして子供達から1つ学んだ瞬間でした。果たして大人にこれができるだろうか？

子供達にはこの合宿のように常にオープンマインドでいてほしいと思います。



【食育】トレーニングの後にバスで小野浦海岸に近い愛知県美浜少年自然の家に移動した後、入館のオリエンテーションの後に木村コーチからの栄養講座(なぜ、食べないといけないのか?)をレクチャーしました。

#### 木村コーチ談

今回の合宿での小さいようで、大きかった事は「ご飯はしっかり食べよう」という食育の取り組みでした！普段、家では口にしないような野菜を食べて、おいしさを実感した子が多かったです。伸び盛りの子供にとって栄養は大切。いろんな食べ物のおいしさを知ることができたのではないのでしょうか。

#### 【バンフジュニアリーグ】(1日目午後～2日目午前)

恒例となりました大会形式試合です。成績のつけ方は**個人勝ち点方式**で、勝利チームのメンバーにそれぞれ勝ち点3、引き分けに勝ち点1が加算され、負けは0点です。今回もリーグ戦の上位入賞賞品は、名古屋オーシャンズの選手のサイン入りシャツなど、惜しくも入賞できなかった「頑張ったで賞」は名古屋オーシャンズの選手のサイン色紙でした。今回は今期入団したフットサル界のスーパースター、リカルジーニョもサインを入れてくれました。



#### 【2日目】【海水浴とスイカ割り】

とある子が言いました。「プールの波とは違っておもしろい！」と。実際に触れないと感じない感想をもてる体験だったことでしょう。



#### 【3日目】【バンフ交流戦】

午前に施設を出て岐阜県各務原市にあるコパンフットサルクラブに移動しました。各校でチームを作って初の対校戦形式で行い、今回はバンフグループの岐阜県の各務原校も参戦。高学年クラス、低学年クラスに分かれ総当たり2巡で行い、優勝チームやMVP、健闘賞、ベストゴールキーパー賞など景品授与で締めくくりました。



## 【杉村コーチ】夏合宿総括

今回の夏合宿の新しい取り組みとして成果があった、やって良かったということは何といても食事面でのサポート(食育)でした。食べ残さない、バランス良く食べる、バイキング形式など自分たちでお皿に盛る場合、自分の食べる分を盛る、といった本当に基本的なことですが、しっかりと取り組みました。中には食が細く時間がかかった子供たちもいましたが、しっかりと自分なりに挑戦していました。涙を浮かべながらも食べている姿には感動してしまい、「子供は環境によって、がんばれる生き物なんだな～」と感じました。合宿初日のオリエンテーションでの木村コーチからの栄養講座(なぜ、食べないといけないのか?)が良かったのかもしれません。

その他、コミュニケーション能力を深める「ライフスキルラーニング」やみんな夢中になった「パンフ Jr.リーグ」、2日目の「海水浴・スイカ割り」、3日目の交流試合 in 岐阜などかなり充実した夏合宿になったのではないのでしょうか？子供たちの大切な思い出となってくれば、それだけで嬉しく思います。



## 【編集後記】

例年より体感も記録も暑かったこの夏。ウォータークーラーのお茶の減りはとても早く、目に見えて暑さを実感しました。子供たちも大変だったことでしょう。合宿に帯同するといつも思う事があります。大人は好きなものを食べる、着る、することが自分の意思で決められますよね。一方、子供というのは「自由なようで自ら下す選択の余地はあまりない」なあと。その状況でも「楽しむ事のできる心」はとても柔軟だなあと感じます。

**しかし、その柔軟性は良くない面でも柔軟です。**

大人がその子の為にしつけとして「これ以上は放っておけない、譲れない」という境界線を見極め、気まずさを恐れず**毅然とした対応**が出来るか。この大人の態度を無意識に感じ取る能力はどんな子

も持っていて、欲しいおもちゃを前に地面で駄々をこねる光景は良く見かけますよね。声を荒げる必要は緊急を要する以外はありません。怒って恐怖を感じさせる事によって行動を変えさせるのは自律ではないからです。「怒ったり泣いたりしても無駄だ」と状況は変わらないことに**気付かせてあげれば自分で考えて行動するようになります。**

今回の食育でも子供たちに大人の「本気」を感じてもらい、その中でその子その子の新しい一面を見ることができ、新しいコミュニケーションが取れたかなと思います。

私は十代の頃に管理教育の学校に対してこんな事を思っていました。「大人が管理し易い方法にはめ込まれ、どれだけ心を犠牲にされたか」と。本来、子供の成長を望むなら**強制ではなく自律できるように環境を整えてあげる。**子供が規範意識を備えていれば「全体像から見ると今ここだよ」「それ以上行くと危ないよ」と大人は子供がまだ想像できない先の事を少し助言してあげればよいのではないかと思います。本来の「子供の為」に向き合う大人の覚悟を子供の財産に出来たらステキな事だなと私は思います。

